

最終報告書

ロンドン芸術大学博士課程

山本浩貴

1. 学業面での成果

2015年8月から2016年5月までの学業面・制作面での成果は中間報告書に詳しく記載致しましたので、ここでは主な成果を簡潔に述べさせていただきます。

- 2015年7月：京都芸術センター（京都）にて個展開催
- 2015年8月：IACS：Inter-Asia Cultural Studies Society（インドネシア／スラバヤ）にて学会発表
- 2015年12月：SISJAC：Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures（英国／ノリッチ）にてシンポジウム参加
- 2016年1月：ダラム大学オリエンタル美術館（英国／ダラム）にてグループ展参加
- 2016年3月：文化政策学会（高崎）、ACLA：American Comparative Literature Association（米国／ボストン）にて学会発表
- 2016年4月：AAS：Association for Asian Studies（米国／シアトル）にて学会発表

6月28日には TrAIN 研究所の協力によってレクチャーをオーガナイズしました。日本におけるアートの社会的実践の嚆矢として1980年代に活動したダムタイプ(京都を基盤とするパフォーマンス集団)を取り上げ、社会的な問題に介入するアートの可能性を考えるため、東京大学から竹田恵子助教授を招待し、ダムタイプの演劇作品 S/N (1994) についてのレクチャーをしていただきました。



レクチャーの様子

2. 参加したロータリー活動、プロジェクト内容

2015年8月から2016年5月までのロータリー活動は中間報告書に詳しく記載致しましたので、ここでは簡潔に述べさせていただきます。

- 2015年8月26日：ワトフォード・ロータリークラブにて夕食会に参加し、博士課程での研究について講演を行いました。
- 2016年2月12日：ヒッチン・ロータリークラブにて朝食会に参加し、博士課程での研究について講演を行いました。
- 2016年4月13日：ワトフォード・ロータリークラブにて夕食会に参加し、米国での学会の成果を報告しました。
- 2016年5月4日：セント・オールバンズ・ロータリークラブにて朝食会に参加し、博士課程での研究について講演を行いました。

以下、中間報告書に記載されていない、2016年5月半ば以降のロータリー活動について報告させていただきます。2016年5月25日には、レッチワース(Letchworth)のロータリークラブのミーティングに招待していただき、私の博士課程での研究についてお話をさせていただきました。予定時間を大幅に過ぎてしまうほど、たくさんの質問をしていただきました。英国と日本はずいぶん異なる国のように見えますが、とりわけ私の研究に関係する事項について述べれば、類似点がたくさんあります。例えば、どちらも自らの旧植民地との関係について、多くの課題を抱えています。イギリスはかつての大英帝国の植民地であったインドやジャマイカからの移民に関する課題を抱えていますし、日本には在日コリアンに関する課題が残っています。そのような視点から、英国と日本を比較する質問が多く提出され、実りある意見交換の場となりました。



講演の前に素晴らしいディナーをいただきました

3. 直面した課題、問題点等

個人的に留学生活において最も苦勞した点は、英語です。自分の言いたいことが相手に上手く伝わらず、もどかしい思いをしたことが何度もありました。私は、初めて知った言葉や言い回しで使えそうなものは、すぐにメモをとるように心がけていました。もちろん、日常会話や学会などでの質疑応答にも苦勞しましたが、私が現在も苦勞しているのは英語での論文の執筆です。語彙の不足はもちろんです、日本語とは少し異なる、英語で論文を書くときの作法のようなものがあります。特に私が気を付けている点は、一文の中にたくさんの情報を詰め込まず、一文を過度に長くしないことです。また、不必要に「難解な」形容詞や副詞を乱用することも避けるようにしています。

その他の問題点については、この1年間は友人やまわりの方々に恵まれ、トラブルに巻き込まれたり、レイシャル・ハラスメントなどを受けたりはなく、学業に専念することができました。この点については、友人やまわりの方々にたいへん感謝しています。

4. 今後の課題、キャリア目標

博士課程も残すところあと1年間になりました。この1年間でいままで考えてきたことや集めてきた情報を論文としてまとめ、2017年のうちに大学に提出します。

最終的には日本で教職に就くことを目標としていますが、その前にポストドクターの期間としてもう少し自らの研究に集中したいと考えています。具体的には、シンガポールで東南アジアの現代アートについて研究をしたいと考えています。シンガポールは、近年、国策として文化研究に力を入れており、優秀な研究者や大規模な研究所が増えてきています。そのような環境の中で他国の研究者たちと切磋琢磨しながら研究を続けたいです。

また、私は美術作家としての活動も継続したいです。幸運なことに、ここ数年の間に世界各地で個展やグループ展を行うことができました。これらの業績を活かして、より多くの場所で制作や展示を行い、学術と芸術をつないでいきたいです。それが、日本の学術と芸術の双方にとって有益であると信じています。

5. 今後のロータリー活動への参加

英国では、ホスト先であるワトフォード・ロータリークラブの他、ヒッチン・ロータリークラブ、セント・オールバンズ・ロータリークラブ、レッチワース・ロータリークラブの4つのクラブを訪問する貴重な機会に恵まれました。いずれのクラブのメンバーのみなさんも親切にしてくださり、奨学金の受給期間後もぜひ顔を出すようにと勧めてくださいました。ですので、残りの英国での博士課程の間も機会を見つけてこれらのクラブのロータリー活動に参加したいと考えています。

また、当然のことながら、日本でのホスト先である境港ロータリークラブとのつながりも今後も継

続していきたいです。帰国にはもう少し期間がかかりますが、英国での素晴らしい成果を報告できるように、博士課程の残りの期間、精一杯努力いたします。

6. 今後の奨学生への助言

私は、まだ博士課程の途中であり、偉そうに助言をする立場にはありませんが、私が留学生活において重要だと思うことは、様々な意味で「自らを知る」ことです。自分の長所を知り、それを活かすことも重要ですが、自分の短所を自覚し、それとどのように向き合うかもまた重要です。また、私は、他者の意見に寛容でありながらも、「自ら考える」ことも重要だと考えます。これは簡単なようで難しいことです。常に自分とは異なる様々な意見にオープンでありつつも、自ら考え、行動すること。これは、特に海外留学において自分の道を切り拓いていくために重要です。海外留学では様々な障害に直面することになるとは思いますが、その分得るところも大きいです。月並みな助言ですが、このことは自らの経験から確かなことであると言えます。